

活動の「見える化」を実施 LINEを活用し、負担軽減へ



福寿町内会 会長 こばやし まさあき 小林 正明さん

会長就任で再認識 町内会活動の「見える化」に取り組む

太白区にある福寿町内会は、戸建て、マンション、アパートなど様々な住宅で構成されています。令和4年に会長に就任しましたが、会員から「町内会の活動をもっと知りたい」という声があり、これまでの活動を見直し、どうすれば活動の「見える化」ができるのかと役員と考えた結果、「役員・理事の役割の明文化」「役員間で共通認識を持つこと」「町内の現状把握」の3つを掲げ、重点的に取り組んできました。

見える化を促進するため LINEグループを活用

「役員・理事の役割の明文化」では、それまでの総会資料を更新し、役員や理事の役割分担や、環境衛生部、生活安全部、厚生福祉部の3つからなる部会の活動を大綱としてまとめ会員に配布。それによって活動の「見える化」につながりました。

それぞれの役割が分かりやすくなり、役員間で良いバランスをとることができました。それまで漠然としていた役員・理事の負担感が「これなら私もできる」という意識になり、役員・理事になるというハードルが下がり、担い手確保に繋がってほしいと考えています。

また、活動の「見える化」も、町内会だよりの代わりに総会資料での報告内容を充実させ会員への周知を行っています。例えば、行事の内容を詳細に記載したり、地域の関連団体や行政の連絡先を追加したり、誰が見ても分かりやすい内容にしました。さらに、役員・理事による町内の見回りを実施することで、街灯の故障や掲示板

の老朽化などの地域資源の現状を把握。また、LINEを活用し、役員・理事のグループを立ち上げて定期的に地域資源の共有を行うなど、町内の現状に対する共通認識を持てるようにしています。

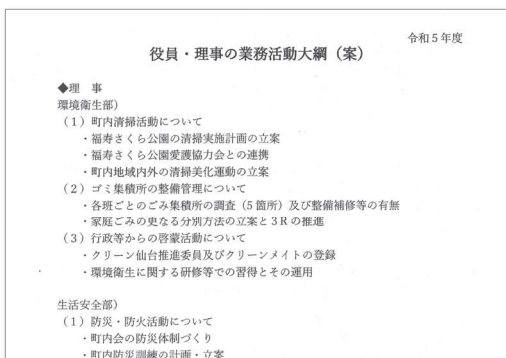
こうした活動が実を結び、会員からは、「役員・理事たちの町内外の活動が明らかになり、わかりやすい」という声がありました。

将来的に登録者を増やし さらなる見える化を目指す

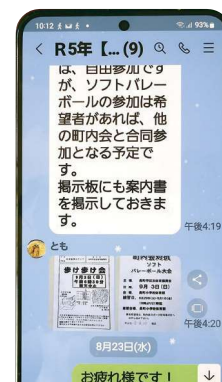
令和5年11月現在、LINEグループは、21名からなる役員・理事のうち、希望者10名が登録しています。スマートフォンのアプリを活用するにあたっては、役員・理事のメインとなる年代が70代のため懸念もありましたが、今では多くの人が家族への連絡などで、普段からスマートフォンを使用しており、LINEグループの導入も特に大きな問題はありませんでした。

また、予想していなかった効果もありました。役員会など対面の会議で発言しなかった人が、「LINE上であれば自分の意見を言える」といった声も少しずつ聞かれるようになりました。それぞれに対話が生まれ、活動の活発化につながるのではないかと今後に期待しています。

町内会の役割は「安全・安心、住みよいまちづくり」だと捉えています。現在、LINEグループの登録は役員・理事のみでの試験導入中ですが、これをきっかけに役員・理事以外の会員にもLINEの登録を促してメンバーを増やし、情報の共有だけでなくLINE上で安否確認などの情報収集や総会資料のペーパーレス化、総会の議決などもとれるようにしたいと考えています。



役員・理事の業務活動大綱



LINEグループ